

① メール道：【大和言葉を使った気の利いた言い回し】

ビジネスメールに大和言葉を取り入れると、気の利いた言い回しとして活用できます。例えば「遅ればせながら」。遅れてはせ参じることで、肝心なときに人より遅れて駆けつけることを意味します。最も良いタイミングは逃してしまったけれど、相手に気持ちを伝えたいときに用いるとよい言い回しです。年賀状を出しそびれた相手に今年最初のメールを送るとき「遅ればせながら、新年のごあいさつを申し上げます。本年もよろしく願いいたします」といった具合に使います。お祝いを相手に直接言うタイミングを逃してしまったときも、メールでやりとりする際に「この度はご結婚おめでとうございます。遅ればせながら、お祝い申し

＜ビジネスメールに使える大和言葉＞

- 「遅ればせながら」
 - ・遅ればせながら、新年のごあいさつを申し上げます。
- 「賜る」
 - ・お品を賜り、ありがとうございます。
 - ・機会を賜り、感謝申し上げます。
 - ・ご縁を賜り、お礼申し上げます。

あげます」と、ひと言添えておくこともできます。お礼を伝えそびれた場合も、相手への感謝の意をメールに書き、結びに「遅ればせながらお礼まで」として送れば、たとえ短い文でも何もせずにやり過ごすより、相手に気持ちを伝えることができます。もうひとつ覚えておきたいのが「賜（たまわ）る」です。人から何かをもらう場合、それが目上の相手からのときにへりくだって相手を立てる謙譲語として用います。贈答品

のような形のあるものをもらったときは「この度は結構なお品を賜り、誠にありがとうございます」のように使うほか、目に見えないものをもらうときも「このような機会を賜り、心より感謝申し上げます」「来賓の佐藤さまからお言葉を賜りたいと存じます」といった具合に使います。この他にひいきにしてもらっている客先に対しては「ご愛顧を賜り」、人との出会いに対しては「ご縁を賜り」のように使います。このように自分には過ぎた言葉や心遣いを相手からしてもらったときに、相手に対する敬意と感謝を込めて使うことの多い言葉です。式典や改まった席でもよく用いますね。ちなみに、上司の指示や客先からの依頼を引き受けるときに使う「承（うけたま）る」は、目上の相手からの命令を「受け」て「いただく」という意の「受け賜る」から生じた言葉です。

②メール道：【敬意を込めて付ける美化語「お」と「ご」のルール】

クレジットカード会社からのお知らせで、次のようなメールを受け取りました。「お電子マネー〇〇〇へのクレジットカードチャージにおけるポイント付与に関するお知らせ」。「お金」「お札」「おつり」など、金銭を示す言葉に美化語の「お」が付くケースはありますが、金銭に代わるものとして普及している「電子マネー」にまで「お」は必要でしょうか。相手に関する美化語に尊敬の意を込めて付ける「お」「ご」があります。例えば、相手の体や持ち物には「お顔」「お名前」「お住まい」など。相手の動作・行動には「お買い上げ」「お帰り」「ご乗車」「ご予約」など。相手に関わることとして「お徳用」「ご利息」「ご預金」などが挙げられます。「お電子マネー」という表記も「お客さまの電子マネー」という意で、相手への敬意を表すために使われ

＜「お」と「ご」の使い方＞

- 「お」が付く金銭を示す言葉
お金・おつり・お札・お小遣い
- 「お」が不要な金銭を示す言葉
お電子マネー・おクレジットカード
- 「ご」が付く金銭を示す言葉
ご送金・ご入金・ご預金
- 「お」「ご」両方付く金銭を示す言葉
ご利息・お利息

ているのかもしれませんが、言葉としての違和感はぬぐえません。

「お」を付けずに「電子マネー〇〇〇へのクレジットカードチャージにおけるポイント付与に関するお知らせ」としても、メールの受け取り手には失礼にならないでしょう。「おビール」「おソース」「おトイレ」など、外来語に「お」を付けた言葉も見受けられますが、外来語にも「お」は付けないのが原則です。お客さまのクレジットカードも「おクレジットカード」「おカード」とは言いませんね。ちなみに「お」と「ご」の使い分けの基準は、訓読みの和語の前に付くのが「お」、音読みの漢語の前に付くのが「ご」とされます。しかし、必ずしも和語には「お」、漢語には「ご」というルールどおりで

はない言葉もあります。和語でも「ご」を付ける例としては「ご入り用」「ごゆっくり」「ごもつとも」など。漢語でも「お」を付ける例としては「お礼状」「お加減」「お時間」などがあります。「ご利息」は「お利息」という言い方もあり、どちらも付く場合があります。一般的に「お」が付くとカジュアルな印象、「ご」が付くと改まった印象を与えますが、使い分けの境界線があいまいになっている言葉はたくさんあります。